

平成 27 年度第 2 回土佐清水市総合教育会議 会議概要

■開催日時：平成 27 年 11 月 24 日（火） 13:27～（14:43 終了）

■開催場所：市役所 2F 市長応接室

■出席者

構成員：泥谷市長、竹田教育委員長、山下教育委員、三浦教育委員、弘田教育長

オブザーバー：磯脇副市長 【欠席者：山本教育委員】

事務局：早川課長、中津課長、倉松課長補佐、横山課長補佐

◇会議次第【司会進行：早川課長】

1 開会【泥谷市長あいさつ】

2 議事

(1)今後の教育施策等について

1. 学校教育課の現状と課題について 【中津学校教育課長説明】

本市の児童生徒の数は減少傾向にあり、毎年 60 人前後が減少している。学校数は小学校が窪津小を除くと 7 校となり、うち複式を有する学校が 3 校、完全複式が 2 校の状況。中学校は、清水中の 1 校のみで、小中学校の生徒数は平成 5 年には 2,202 人であったが、来年度は 784 人、平成 33 年度は 654 人にまで減少する。課としても少人数学級に向けた取組、適正規模の学校再編等に取り組んでいきたい。

全国学力学習状況調査で、本市は小学校において、近年下降していたが今年度は全教科で全国平均を上回った。中学校は今年度も全教科で全国平均を下回った。今後も課、学校現場とともに学力向上に向け取り組んでいきたい。

2. 今後の教育施策や来年度予算に反映させる教育施策について意見交換

来年は特別支援学級において、知的の児童が 7 人となる学校がある。法的には児童 8 人に対し先生が 1 人というのが基準ではあるが、学年が離れているなどそれでは厳しい。子どもたちに合った教育を行い、学力を向上させることを考えると、支援員の補填・補助は必要不可欠。支援員数の現状維持もしくは増員について配慮してほしい。

土佐清水市は、ジョン万次郎の生誕地としてこれまでも[※]A L T の配置など、英語教育に力を入れている。今年度は幼児から英語に慣れ親しんでもらうよう英語版絵本も作成した。学校で習う英語と英会話とは違いがある。A L T に協力を得ながら、本市独自の英会話の実用的な英語冊子を作成してはどうか。近年、本市を訪れる外国人観光客も増えており、今後も増えることが予想されることから必要ではないか。

教育現場でも人口減対策が課題となる。市内唯一の高校である清水高校の生徒数の減は喫緊の課題。清水中学校との中高一貫教育を今後も継続し、内容についても充実させる必要がある。

上記事項を次年度予算反映に向け学校教育課（教育委員会）で検討するとともに、財政サイド（企画財政課）でも検討することを確認。

[※]A L T : Assistant Language Teacher の略。外国語を母国語とする外国語指導助手。